

【2024(令和6)年度 第53回 九州高等学校ハンドボール選抜大会】
(第47回 全国高等学校ハンドボール選抜大会 九州地区予選大会)開催地:鹿児島県

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和6年度(公財)日本ハンドボール協会「競技規則」によって行う。

2 競技会場

(1) 競技会場・コートの広さは、以下のとおりとする。

男子 ○横 川 体育館(40m×20m) / ○溝 辺 体育館(40m×20m)

女子 ○桝志田 体育館(40m×20m) / ○牧 園 アリーナ(40m×20m)

※会場では、「松やに」および「松やにスプレー」の使用を禁止する。

ただし、「両面テープ」のみ使用を認める。

※会場によっては、ゴールラインから壁面までの距離があり、ゴール後方のスペースが広い場合、ゴールキーパーからのリスタート(返球)が遅れる可能性がある。

よって、全会場のゴール後方に予備(マルチ)ボールを配球しておく。その運用・使用については、別紙「マルチボールの運用ガイドライン」を参照すること。

(2) 別紙「会場使用上の注意」等を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、チーム役員4名以内・選手16名以内の合計20名以内とする。

※ベンチ入りする役員が生徒の場合は、2名までとする。

4 競技方法

競技方法は、各県1位の代表および2位の代表によるトーナメント方式とする。

5 参加資格

参加資格は、「実施要項 11」の通りとする。臨時トレーナーについては、別に定める。(※「16」参照)

6 競技日程・時間

(1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。

(2) 競技時間は、「前半30分-休憩15分-後半30分」とする。

なお、同点の場合は、延長戦を正規で行う。(第1延長戦~第2延長戦~7mTC<5名>)

7mTCについては、JHAホームページ「7mTCの実施要項」により実施する。

第1延長戦は、「後半終了後→5分休憩(即トス)→前半5分→休憩1分→後半5分」とする。

第2延長戦は、「第1延長戦終了後→5分休憩(即トス)→前半5分→休憩1分→後半5分」とする。

※2位代表の交流戦は、延長戦を行わない。

(3) 競技時間は、加算式の電光掲示板を使用し、コートの対角、または、ベンチの対面に表示する。

(4) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザーまたはホーン、笛で行う。

(5) 退場者の取り扱いは、以下のとおりとする。

- ①退場者の番号と入場時間は、「電光表示板」で表示することを基本とするが、会場（牧園アリーナ）によっては、設営の関係上「記録席上に用紙」で表示する場合があるので、試合前に確認すること。
- ②入場判断は、チームの責任であり、記録席から合図することはなく、問いかけられても回答しない。

7 大会使用球（（公財）日本ハンドボール協会検定球を使用する。）

【男子】「ミカサ社 HB350B-WBL」（全日） 【女子】「モルテン社 H2A4000-GB」（全日）

8 トス・ユニホーム

(1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。その際、チーム役員の服装（色）及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5)、16(1)

(2) ユニホームの確認について、第1試合は、記録席前で試合開始30分前に行う。

以降の試合は、前試合のハーフタイムで行う。

確認の際には、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。

希望調整がつかない場合は、組合せ表によるチーム番号の大きいチームが変更する。

(3) ユニホームについては、下記のとおりとする。

条件に満たない場合は当て布等で覆わなければならない。

その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。

- ① 番号の大きさ（高さ）は、胸10cm以上・背20cm以上とし、ナンバリングは1～12とする。
- ② 基調色として、半分以上が同色でなければならない。
- ③ 広告を表示してはならない。
- ④ メーカーのロゴは、20cm²以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
- ⑤ 背に氏名の文字表記をする場合は、大きさ（高さ）10cm以内とする。
- ⑥ 試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして、競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。
その場合は、同番号でなく、申込と異なる番号でも問題ない。
交代地域にいる別のプレイヤーのユニホームと交換することも許される。
- ⑦ チームは、ユニホームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。
ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのワンポイントロゴなどは問わない。

(4) ゴールキーパー

- ① チームで同色とする。
- ② コートプレイヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。
登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。

(5) 服装、プレイヤーの装具

- ① プレイヤーはユニホームの下に、パワーパンツ、コンプレッション ショーツ、インナー ハーフパンツ、レギンス、長そでなどのウェアを使用できる。ユニホームの外に見える場合は、以下の規定が適用される。
- ② アンダーシャツは、ユニホーム（シャツ）の大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
- ③ サイクリングパンツなどユニホーム（短パン）の下に履くものは、ユニホーム（短パン）の大部分を占めている色と同色であれば使用できる。ただし、黒色は例外として、ユニホーム（短パン）の色とは関係なく使用できる。

※ 例) チームのユニホーム（短パン）が白色の場合、白のサイクリングパンツをはいているプレイヤーと黒色のサイクリングパンツをはいているプレイヤーが混在していても差し支えない。

- ④ アンダーシャツの色は、チームで統一された色でなければならない。
- ⑤ すべてのプレイヤーは、靴下を履き、その色はチームで統一された色でなければならない。
- ⑥ 膝下の装具(例:ふくらはぎへのコンプレッションスリーブ、足首の装具など)は、靴下と同色であること。
(国内では、足首の装具については、靴下と同色でなくてもよい)
- ⑦ 肘や膝の装具(身体の1か所のみを保護する装具)の色は問わない。
- ⑧ 眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。ただし、金属製のフレーム等については使用できない。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 所定の申込を完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することができる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名、チーム役員3名以内、選手16名以内の合計20名以内が入ることができる。
- (3) チーム役員・選手の変更については、2月6日(木)17時までに申請が完了したことで決定する。
変更申請が完了した内容については、一覧用紙を会場にて、プログラムと一緒に配付する。
- (4) 登録証の取り扱いについては次のとおりとする。
 - ① トスの際には、テクニカルオフィシャル(以下:TO)に登録証を提出する。提出不可、または不備(写真添付なし等)があった場合は、試合に出場・参加することはできない。
 - ② **TOまたは審判員が、試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。**
試合中は、TOが登録証を管理し、試合終了後に両チーム代表者に返却される。
 - ③ 失格のチーム役員・選手、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、試合後に返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、チーム責任者は「A」を着用する。また、試合終了後に返却すること。

10 公式記録用紙

- (1) **記録用紙は、(公財)日本ハンドボール協会「公式記録用紙」(ランニングスコアなし)を使用する。**
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・選手氏名・背番号」などを責任持って確認し、サインをする。
- (3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域規定

- (1) 交代ラインは、センターラインから4.5mの位置を示すポイントまでとする。
- (2) コーチングゾーンは、センターラインから3.5mの位置を始端、アウターゴールラインから8mの位置を終端とする。場所に余裕があるときはベンチの真後ろも含まれる。
- (3) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (4) 飲料水は、飲み口の細い容器を使用し、コップの使用を禁止する。
- (5) 交代地域では、通信機器の使用を認める。詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (6) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (7) チーム役員は、相手チームのコートプレイヤーと異色の服装でなければならない。トスの際にユニホームの色が確定した後に、役員の色を確認する。

- (8) チーム役員は、原則として座っていなければならない。ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。
- (9) チーム関係者が観客席から、選手への指示や審判員の判定に対するクレーム発言は厳禁とする。

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトは、1試合で3回請求することができ、前後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、試合の後半残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。
- (2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならない。躊躇することは許されない。ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TOが直接受け取ってよい。

13 休憩時間(ハーフタイム)

- (1) 休憩時間のコート使用は、次試合のチームが練習のため使用する。
- (2) ハーフタイムは10分間(減算式)とし、次試合のチームのコート使用は9分間とする。タイマーは9分でセットし、ブザーにより通知する。アップ中のチームは、ブザーの通知で速やかにコートアウトする。後半開始まで残りの1分間は、補助員が後半に向けたコート整備の時間とする。

14 テクニカルオフィシャル(TO)、裁定委員会

- (1) 本大会は、各試合にTOを配置する。初日と二日目の配置は2名とし、最終日は3名を配置する。2名体制の場合は、マッチオフィシャル(MO)兼タイムキーパーを担当するテクニカルデレゲート(TD)、およびスコアキーパーを担当するTDで対応する。
- (2) テクニカルオフィシャル(MO・TD)は、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (3) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長・副審判等とする。なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 次の試合のチーム役員・選手フロアへの入場

次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了後に両チームの挨拶が終了するまで、フロアへの入場を禁止する。競技中に次試合の役員・選手が、フロアで練習をしたり、試合を観戦したりすることがあってはならない。ただし、フロアの外に待機場所がなく、また、フロアを通過しないと更衣室を利用できない会場もあるので、各会場が定める待機位置や会場責任者の指示を遵守すること。

16 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。トスの際には、必ずTOに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや自チームの応援や選手への指示はできず、自席での対応のみとする。選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。

(3) TOが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

※会場には、医療スタッフが常駐しているので、トレーナーを帯同させていないチームは、積極的に相談・活用して良い。

17 表彰

競技2日目に「横川体育館」(男子)、「桧志田体育館」(女子)の各会場では、準決勝の試合終了直後に3位表彰(賞状授与のみの簡易表彰)を行う。

また、競技最終日に「横川体育館」(男子)、「桧志田体育館」(女子)の各会場で、決勝戦の終了後に決勝戦に出場した2チームを対象に表彰を行う。

18 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

19 観客席

今大会は、スポーツ競技活動を通じた社会活動の一場面である。各チームの役員は、「競技上の注意」「会場使用上の注意」などを選手および応援者たちに徹底させる。